

課題名	29 暖地型牧草新品種の乾草適性	分類	②		
	暖地型牧草3草種の乾草適性				
試験研究年次	63~2年(完了)				
I 目的					
暖地型牧草3草種の新品種について乾草適性を明らかにし、良質乾草安定生産技術の確立を図る。					
II 試験方法					
1 供試草種	ローズグラス(ハツナツ) ギニアグラス(ナツカゼ) カラードギニアグラス(タミドリ)				
2 播種期	63年6月6日				
3 播種法	40cm条播または散播				
4 播種量	0.5kg/10a				
5 施肥量	(kg/10a)				
	区 分	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備 考
	基 肥	10	10	10	播種時
	追肥1	7	0	7	7/4~7/12
	追肥2	7	0	7	刈取り後
6 試験規模	1区9㎡(3m×3m) 3反復				
7 刈取時期	出穂始, 出穂期及び開花期結実期				
8 乾燥方法	天日乾燥				
9 測定時刻	9時(朝)	13時(昼)	17時(夕)		
III 主要成果の概要					
乾草調製を行う暖地型牧草としては、ローズグラスまたはカラードギニアグラスが適している。ギニアグラスは太茎で乾燥速度が遅く、かつ単収も多いため乾草適性が低い。					
1 出穂始刈りで乾草に適するのは、カラードギニアグラスとローズグラスである。ギニアグラスは太茎で乾燥速度が遅く3日間の乾燥でも水分が20%以下にならず乾草になりにくい。					
2 開花結実期刈りでは、ローズグラスの乾燥が最も早く乾草向きである。カラードギニアグラスは水分含量がやや高く乾燥速度が遅いため、開花結実期刈りでは乾草適性が低い。					

IV 主要成果の具体的データ

第1表 刈取時期と乾物収量 (単位: kg/10a)

草種	出穂始			出穂期 開花結実期		
	1番草 (8.1)	2番草 (9.16)	合計	1番草 (8.8)	2番草 (10.11)	合計
ローズグラス	225	396	621	320	591	911
ギニアグラス	417	798	1215	455	856	1311
カラードギニアグラス	134	418	552	225	554	779

注) ()内は刈取り月日

第2表 刈取期別、草種別水分の推移 (2番草) (単位: %)

測定時	出穂始			開花結実期		
	ローズグラス	ギニアグラス	カラード ギニアグラス	ローズグラス	ギニアグラス	カラード ギニアグラス
当日	82	84	83	72	73	75
当日夕	77	81	79	66	67	69
1日朝	74	78	76	60	63	65
1日昼	67	74	69	49	56	56
1日夕	48	61	51	42	51	50
2日朝	43	57	45	32	44	41
2日昼	31	47	30	24	36	32
2日夕	23	37	20	20	33	28
3日朝	23	34	19	15	28	22
3日昼	16	26	11	14	27	21
3日夕	14	20	10			

注) 水分の推移は同一重量当たりで比較した。

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 ギニアグラスは乾草適性が低いので、サイレーズ利用等とする。
- 2 カラードギニアグラスは、乾燥速度は速いものの、初期生育が遅いため雑草との競合に弱く、収量が低い。

VI 今後の研究上の問題点

ギニアグラスのサイレーズ調製技術の検討

VII 資料名

2年度九州農業試験研究成績・計画概要集(草地飼料作)、九州農業試験場